

ちょっと後ろを

—「支援」へのとまどい—



【美しきもの】 連休から始まる5月。陸前高田は春爛漫。満開のサクラが広田でも小友でも咲き誇っています。広田小中では、折れた桜も花をつけ満開となり、先週まで真っ暗だった信号にも光が戻ってきました。小友小中では、大きな鯉のぼりが、瓦礫を見下ろしながら、青空を目指して泳いでいます。私たちのテントの外では、朝の5時を過ぎると、「起きろ〜！」という元気な子どもたちの声が響くようになりました。朝、道路に出て、迎えの車を待つ中学生をあちこちで見かけました。隣町の施設で部活動をやるために出かけていくのです。中学生だけでなく、少年野球の練習も始まりました。「筋肉痛…！」と叫んで避難所のベンチで横になっていた少年の表情は、うれしそうでも、照れくさそうでも…。



そんな美しい風景や光景や表情が、いま陸前高田にはあふれています。

今回の「お届け物」のメインは、ホワイトボード(?)でした。学校が再開され、少しずつ「いつもの生活」に向かって動き始めている今、私たちに求められていることは、もっと丁寧にニーズを拾い上げることと、陸前高田市の教育行政と連携した「お手伝い」です。

グラウンドが使えない…、教材教具が足りない…、子どもたちの持っていたワーク類や資料集なども全部流されてしまった…。そうした「きびしい」状況はそれぞれの学校、それぞれの教科によっても違います。こうした「量は少なくとも、多様な必需品」を整理するために考え出したのが、「ホワイトボード注文票」です。先生方がふと、あれが必要だと思ってもそれが手に入りづらいとき、ホワイトボードに書き込んでおいて、たまったところで大和までFAXをしてもらおうという方法です。このホワイトボードを小友小中学校にカタログとともに置いてきました。また、まだ1階には電気が来ていないのですが、来た時には真っ先に使えるようにと、保健室用の冷蔵庫も届けてきました。菅野副校長先生のお話では、授業にあたって、ワーク、資料集、技術科教材などの副教材を購入したいが、この震災で保護者からの**集金も躊躇する現実**があり、困っているご様子でした。「**地元の業者を通じて教材を購入し、代価についてはEd.ベンチャーでお支払いする**」方法を提案してきました。現段階でも理科の実験道具や体育用具など、多くの必要なもののリストをいただきました。支援活動のための寄付を今後も幅広くお願いして、なんとしてでも再開を果たした学校と子どもたちへの「お手伝い」をしていきたいと思えます。また、支援を幅広く効率的に行うため、やっと動き始めた教育委員会を訪れましたが、残念ながらお会いすることができませんでした。教育委員会の動きに協力する形で、学校現場への支援活動を組み立てていけたらと思っています。これからの「お手伝い」の核になっていくことでしょう。

早くも支援は大きな転換期を迎えました。猛烈な勢いで動きつつある現地の意思(意志)に学びながら、**私たちはそのちょっと後ろを併走していきたい**と考えています。

【「ニーズ」とは「痛み」をとともなうもの】 私たちの支援活動のスタートは、行政機関を媒介としたニーズ把握がうまくいっていないこと、そのもとで「何かしたくてもできない」といった状況が、「頑張れ、日本!」といったかけ声に集約されていくことへの違和感でもありました。私たちのグループは、前身が、学校・地域・家族の関係の中で「生きにくさ」を抱える外国人の子どもたちへの支援でしたから、支援対象者の「ニーズ」や、支援する側/支援される側の権力関係を、ある程度は理解しているという自負は多少なりともありました。そのように慎重に整理してきた「支援」や「ニーズ」ではありましたが、そこに伴う「痛み」について、今回の支援活動を通してあらためて考えさせられることとなりました。

今回の訪問の際に、モビリア避難所には、一度使用されたビニール手袋が届けられていました。その数200以上、それらが無造作にビニール袋に入っていました。そこにいあわせた私たちは、避難所の方と一緒に手袋をはめてみたのですが、どれも小さくて入らないものばかりで、責任者の方は「これ、どう使うの??」を繰り返しておられました。きっと「いらぬよ!」と怒りを爆発させて叫んでしまいたいところなのでしょうが、それらが「被災地を思っの行為」であることを考えてしまうと、その怒りや叫びは失われ、「これ、どう使うの??」といったおどけた表情へと変化したり、「私たち、贅沢になってきている」という言葉になったりしているのです。

そうした場面に数多く出会うようになると、「何か必要なものはありませんか」という私たちの言葉さえ失われていきます。「支援」を旗印に現地入りしている私たちは、自らの存在のあやうさを感じることとなります。そして、「これも支援」ということで、いただいて来ることになるのです。前回はカブトムシの幼虫を、今回は、手袋、そして、栄養ドリンクを。栄養ドリンクは、巡回する医師から「飲み過ぎは肝臓に悪い」と指導されているとのことで、これもかなり余っているようです。

「被災地を思っの行為」と「被災地のニーズ」は重ならないという理解は、今や私たちの間で確信に変わりつつあります。たぶん、カブトムシの幼虫や手袋の支援の延長線上に、私たちが行っている支援活動もあるのだと思います。だって、ホントは支援なんてされたくないのですから…。それでも一方で、外からの力が現地の状況を変えている事実、「わたしたちだけでやれる」とは言えない被災の現実があります。「被災地のニーズ」を考えれば考えるほど「痛み」が伴います。

【すたんどばいみーの子ども支援】 学校の再開に伴って、避難所の子どもたちの数が減ったことは、前号でお伝えしましたが、その一方で、モボリア避難所では仮



設住宅の建設が急ピッチで進んでいました。現在のところ、70件ほどの建設が予定されているそうです。そうなれば、仮設に入居してくる子どもたちの支援へと活動がシフトしていくこととなります。私たちの学校支援の活動も転換期ですが、すたんどばいみーの子ども支援も転換期を迎えることになりそうです。

今回の訪問では、すっかり顔なじみになった子どもたちが、宿泊テントに遊びに来ました。小さな子どもはお兄さんたちの膝の上で大喜びです。この子たちも仮設住宅に入居すれば、また違った表情を見せるのかもしれない。

【今後の予定】

■第6回支援活動 5月6日～8日（第1陣5日深夜発／第2陣6日夜発）

○小友小中学校 保健室ソファベット

○ニーズ調整システムの構築 広田小中学校 教育委員会

■支援準備中の物資 支援依頼のあった理科教室用品・体育用品の調達

■支援隊の編成

.同行を希望される方は、お知らせください。

金曜日の夜8時大和市付近を出発、帰りは日曜日の夜8時大和市の予定です。

■支援活動のための必要物資をご提供ください。

○イベントの必需品（テント・軽い折りたたみ椅子）

○業務用ワゴンを、金曜夜から日曜夜まで貸してくださる方

【求む！支援金の寄付】

■4月支援金収支報告（3月30日～5月1日）

1. **支援金寄付総額 92万9500円（支援者総数50名）**

2. **支援総額 69万3429円**

第1回 8万8100円 ニーズ探索、モボリア生活用品支援

第2回 12万9596円 小友職員室用品：パソコン・文具

第3回 15万3181円 小友学校用品：軽トラック・ガソリン、
広田職員室用品：文具、紙

第4回 22万1843円 小友保健室用品、広田生徒使用の自転車ヘルメット

第5回 7万5389円 ニーズ調整、小友保健室用品（冷蔵庫）

支援運営費 2万5320円（報告会開催会場費、宿泊用テント、腕章）

3. **残額 23万6071円**

1ヶ月の支援活動を総括するために支援金の収支報告をあげてみました。週末1回の支援活動に、10万円から20万円で、平均で15万円ぐらひはかかっております。現在の支援活動が継続した場合、残額から算定すれば残り可能な活動はあと2回で、目標としている7月までの継続的な支援には後140万ほどが必要です。

事務局では、現在、日本財団の「『東日本大震災』による被災者・被災地支援に関わ

る活動」に100万円の助成金を申請中ですが、応募者多数のために、5月末にならないと結果がわからない状態となっています。

一方、行政がやるべきことを行政がやるように支援することの必要性も十分認識しており、復興にあわせて、陸前高田市教育委員会と連携し、被災地の物流に貢献できるような支援と、こちらで購入提供せざるをえない物資の選別を始めることも検討しております。さらに、この先には、子どもたちの学習教材費の購入が、個々の家庭の負担になる状況を、どのように支援できるのかという課題があります。このように考えていきますと、やはり1回の支援にかかる費用は現状をくだらないことが予想され、日本財団の決定がおりるまで（もちろん、獲得できると確約されているわけではありませんが）、それでも当面の活動を継続するためにも資金が必要となります。

これまでも、複数回にわたり支援金を寄付していただいている支援者の方もおられます。また、広く通信を配布し、支援金の寄付を募ってくださっている方もおられます。今後一層広く厚く支援の輪が広がることをお願いしたいと思います。

私たちが支援しているのは、いくつかの小さな学校です。しかし、そこにおいても、可能な限り、私たちが今住んでいる地域で行われている教育に近い教育を、被災した子どもたちが受けられること、そうした「教育の平等」への願いを形にする支援を継続していきたいと思っております。

【ご協力に感謝!!】

■今回の支援隊のメンバー（9人）

柿本隆夫（引地台中学校）、清水睦美（東京理科大学）、笹本雪子（引地台中学校）、近藤美紀（渋谷小学校）、松田洋介（金沢大学）、黒木啓之、すたんどばいみー：チューブサラーン、グェンタンティン、大城グスタボアドリアン

■小友小中学校

○寄付からの買い出しによる支援：保健室用冷蔵庫（小友小中学校）

○提供された物資による支援：小学校の算数教材（小友小学校）

○ニーズ調整のためのパネルの設置（小友小中学校）

■ご協力いただいたみなさま（敬称略、順不同、物資・寄付を含む）4/23～4/29

松田洋介（金沢大学）、小野奈生子（共栄大学）佐久間亜紀（上越教育大学）、藤田武志（日本女子大学）、佐々木亮（東京理科大学）、工藤美和子（大和中学校）、鹿島真由美（上越教育大学生）、小西永里子（大和市国際化協会）、小谷さん、Ed.ベンチャー日本語教室有志（菊池健一、トランタイクン、ソクニェン、リナ、ソクマカラ、ワーサンナリ、ファイ）、川田龍哉（東洋館出版社）、丸源自動車

今後の継続的な支援の活動のために広く寄付を募っております。

横浜銀行 中央林間支店 普通6018180

Ed.ベンチャー東日本大震災支援（エドベンチャーヒガシニホンダイシヤシエン）

NPO 法人教育支援グループ Ed.ベンチャー

〒242-0007 大和中央林間 3-16-12-107

Tel/Fax:046-272-8980 e-mail: toiwase@edventure.jp

